

# 法政大学学術機関リポジトリ

## HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

なし

---

(発行年 / Year)

1910

第二節 代理

理由凡ノ法律行為ハ其行為、性質ニ及セ  
サニ限トハ他人ヲシテ之ヲ為ナシムルコ  
トヲ得ルヲ以テ原則ト為サカル可カラス  
加之法律ハ或場合ニ於テ代理人ヲシテ本  
人ニ代リテ諸般ノ法律行為ヲ為サシムル  
必要アリ是ニ於テカ委任ニ因ル代理ト法  
律上ノ代理トノ區別ヲ生ス而  
其何レノ種類ニ屬スルヲ問ハ  
リ人トノ關係及ニ第三者ト本人又代理  
人トノ關係即テ規定期間アリト  
於テハ近世ノ立法例ニ倣ヒ  
即テ主張規則於テ原  
三者ト本人及ニ代理人トノ關係付キ又  
要ノ規定ヲ設ケタリ但此第三者ト代理人  
トノ關係タルヤ素ト純然タル代理關係ニ  
非スト當モ汎ク代理關係ヲ解スルトキハ  
之ヲ以テ其一部トナスドリ得ヘン是レ乎  
節ニ於テ第三者ト本人トノ關係ヲ規定ス  
ルト同時ニ第三者ト代理人トノ關係ヲ保  
セテ規定シタル所以ナリ又本人ト代理人  
トノ關係ハ委任契約ノ關係ニシテ代理關係  
係ノ範囲内ニ屬セサルヲ以テ之ヲ第三編  
ニ讓リタリ但法律上ノ代理ハ其各種ノ代  
理人ニ付干別段ノ定ナキ限必給テノ点ニ  
於テ本節ノ規定ニ依ルヘシニノトス

國傳う  
タニモノ  
アラシテ

代理ト云ヘル標題ニテ委任者ト代理人ト  
ノ關係及ニ第三者ト委任者又ハ代理人ト  
ノ關係ヲ併セ規定シタリト虽ニ其規定ノ  
十中八九ハ委任者ト代理人トノ契約干係  
ニ屬シ彼ノ第三者ト本人又ハ代理人トノ  
關係ニ至リテハ之ヲ規定スル條項甚シ不  
充分ナリトハ既成法典ハ近世ノ學メ理ニ  
基キ實際ノ必要上ヨリ一般ノ法律行為ニ  
付キ代理シ認メタルニ拘ラズ商止此  
點ニ付キ羅馬法ノ舊套ヲ脱セサ  
ル如キ觀アルハ頗ル惜ハキコ  
トト謂フヘレ今本業ニ於ラ茲  
ニ代理ニ關スル規定ヲ掲タル  
法典調査會

モノハ主トシテ此次点ヲ補  
ハントスルノ主意ニ外ナラリ  
ハナリ

### 尙百條

(理)由本条ハ代理人カ代理行為ヲ爲スニ必  
要ナル條件及ニ其代理行為ノ效力ヲ規定  
シタルセノナリ所謂代理行為ノ必要條件  
トハ代理人カ其代理權ノ範圍内ニ於テ法  
律行為ヲ爲スコト及ニ明示又ハ默示ニラ  
本人ニ代リ其行為ヲ爲スノ意思ヲ表示ス  
ルコト即ケ是ナリ而シテ此ニ條件ヲ具  
備シタル代理人ノ法律行為ハ直接ニ本人  
對シテ其效力ヲ生シ本人ハ之ニ因リテ權利

ヲ得又ハ義務ヲ負フモノトス蓋シ代理人  
ハ單ニ本人ノ機具ニ非スレテ自己ノ意思  
ヲ表示し其意思表示カ直接ニ本人ノ利害  
ニ於テ其效力ヲ生スルモノタルコトヲ示  
シタルナリ

第二項ハ第三者カ代理人カ對シテ通告又  
ハ解約ノ通知ノ如キ單獨行為ヲ為シタル  
場合於テハ直ち第一項ノ規定ヲ適用ス  
ルコト能ハサルニ因リ獨乙民法草案ノ例  
ニ倣ヒテ之ヲ置ケリ

## 第二百一條

(理由)本條ハ代理人カ法律行為ヲ為スニ當  
リテ本人ノ為メニスル意思ヲ表示セス又

法典調査會

自己ノ為メニスル意思ヲ有セサルヘキ場  
合ヲ規定シタルモノトス蓋シ此場合ニ於  
テハ眞實ノ意思ヲ表示セラレバ現ニ表示  
セラレタル意思ハ眞實ノ意思ニ非ラサル  
ヲ以テ一般ノ原則ニ依ルトキハ其意思表示  
モ何等ノ效力ヲモ生セサルモノナリ然  
レトモ代理人カ本人ノ為メニスル意思ヲ  
表示スルコトヲ屢々タル場合ニ於テハ假  
令自己ノ為メニスルノ意思ヲ有セサリシ  
トキオトモ之ヲレテ其意思表示ノ拘束ヲ  
受ケシムレコトハ實際ニ於テ極メチニ要  
ナリトス之ヲ要スルニ本条ノ規定ハ前條  
ニ所謂本人ノ為メニスルコトヲ示シテ意

思表示ヲ為スヘキ要件ニ背キタル制裁ナ  
リトス。若レ夫レ代理人カ本人ノ為メニス  
ル意思ヲ表示セスシテ為シタル法律行為  
ニ何等ノ效力ヲモ附セサル。中ハ第三者ハ  
之カ為メニ不測ノ損害ヲ蒙レヒ至ル可シ  
是レ即ケ独立民法章按ノ例、微ヒテ本條  
規定ヲ設ケタル所以ナリ

第一百二條

(理由) 本條ハ財産取得編第二百二十四條  
規定ニ字句一修正ヲ加ヘタルモノニ遇キ  
又常文ニシテ委任者ト代理人トノ關係ノミ  
付キ規定セリト當モ此規定外ニ本人ト  
第三者トノ關係ニ於テモ亦適用スヘキモ

法典調査會

トス蓋シ代理人ノ無能力者タルコトヲ  
妨ケサル所以ハ他ナシ其代理行為ニ依リ  
テ自ラ負失リ受クルコトナキヲ以テ無能  
力者ノ保護ヲ害スルコトナシ無能力者ト  
虽モ苟ニ本人ニ於テ自己ノ代理人ト為シ  
足ルモノトセハ敢テ之ヲ禁マスルノ必要  
ヲ見サヘナリ但本業ニ於テ無能力者ト相  
スル者ハ限定能力者ノ謂ニシテ其全ノ意  
思能力ナキ者ニ付テハ固ヨリ本條ヲ適用  
スヘキニ非サルナリ

第一百三條

(理由) 本案ニ於テ代理入ハ自己ノ意意思ヲ

表示スルモノトスルノ主義ヲ抹レリト體  
モ第百条第一項ノ規定ハ未タ此主義ヲ明  
ニスルニ延テナルコ以テ茲ニ本条第一項  
ノ規定ヲ設ケ以テ此主義ヨリ生スル一大  
結果ヲ示シタリ第ニ項ハ耶ナ第一項ニ對  
于此制限ニ外ナラス今此制限ヲ設ケタル  
所以ハ他十ニ此場合ニ於テハ本人カ代理  
人ノ決意ニ與ツテ大ニカアリタルヲ以テ  
ナリ

#### 第一百四條

(理由)本条ノ規定ハ既合法規及ヒ諸外國ノ  
法律ニ存スル規定ナリトス抑モ代理權ノ  
範圍ヲ定ムルハ畢竟意思ノ解釋ニ歸スヘ  
キモノタルコト論ヲ俟タスト雖モ若シ本

法典調査會

人カ代理權ノ範圍ヲ定メヌシテ汎博ナル  
委任ヲ與ヘタル場合ニ於テ代理人カ賣買  
贈與其他ノ處分行爲ヲモ為スコトヲ得ハ  
キモノトセハ其危險是又大ナルトク又本  
人ノ意願ニ反スルコト多ヤリヘキニ依リ  
法律ヲ以テ其權限ノ範圍ヲ定ムルヲ便ト  
ス但簡理行島、何タルコトニ付テハ議論  
ヲ生スルコトナカルヘキニ依リ此ニ文ワ  
掲ケサルナリ

#### 第一百五條

(理由)本條ハ財產取得係第二百三十條ニ修  
正ヲ加ヘタルモノトス原文ニ依シハ代理

人特ニ禁セラシサル限ハ復代理人ヲ選仕  
スルコトヲ得ルモノトセリ是し佛國其他  
ノ立法例ニ倣ヒタルモノナリト雖モ委任  
ノ本旨ニ悖ルモノト謂ハリルヲ得ス蓋し  
委任者ハ代理人ノ適仕ナルコトヲ信ヒテ  
之ニ委任ヲ為シタルモノニシテ代理人カ  
自ラ適仕ト認メタル者ニ代理ヲ為サセム  
ル意思アリタルモノト推定スルハ頗ル其  
當ナ得心ナリ故ニ本案ニ於テハ代理人ハ  
其一己ノ意思ヲ以テ復代理人ヲ選仕スル  
コトヲ得サルヲ原則トシ茲ニ此原則ニ對  
スル例外ノ場合ヲ規定シタリ

第六條

法典調査會

(理由)既成法典ニ依シテ委任者ノ明示又ハ  
默示ニテ復代理人ノ選仕ヲ禁セサル限ハ  
代理人ノ選仕ヲ為スコトヲ得ヘキリ此テ  
其場合ニ於テ代理人ハ復代理人ノ行為ヲ  
付キ自己ノ管理ニ於ケルト同一、責ニ任  
スハキコトニ定メタリト難モ(取二三其一)  
獨未然本案ニ於テハ前条ニ剰余ヒル場合  
ニ限リ復代理人ヲ許スニ因リ其場合ニ於  
ケル代理人ノ責任ハ既成法典ニ定ムル日  
リモ一層輕カラサルコトヲ得ス蓋し本条  
第一項ヲ設ケタル所以ナリ案ニ頂ハ要文  
第二項ニ聊カ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノ  
ニ過干ス又原文第三項ハ前述復代理ニ關

スル原則ノ変更ノ結果トシテ之ヲ削除セ

第百七條

理由本條ハ財産取得編第二百三十六條ニ  
該当スルモノニシテ原文第一項ハ其一部  
ハ本案ニ株リタル主義ノ結果トシテ其商  
用リ生ゼズ又一部ハ次条ノ規定アル為メ  
其必要ナキニ因リキノ前レリ同席ニ頂  
如キモ但其主幹ノ規定ノニシテノ設クル必  
要アルヘキニ固リ本条ニ之ヲ株田セリ但  
直権説施ナル諸ハ既證リ要スル如ノ間工  
穂雷ナラサルノ以直権ニ権利ノ行使シト  
改メタリ又追認ノ效果ヲ生スルハ本人方  
復代理人ニ對シテ権利ヲ行使スル場合ノ  
ニニ在ラヌビニ対シテ基務ノ履行シタル  
場合ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ生セサル可  
カラサルカ故ニスハ基務ノ履行シタル可  
本ノ數字ヲ加ヘタリ

第一百八條

(理由) 本條ノ規定ハ代理人ト復代理人ト其名稱ヲ異ニスル者ノ或ハ疑義ノ生スルアランコトヲ恐レ之ヲ設ケタルノミ

第一百九條

(理由) 凡ソ代理人カ本人ノ為メニ代理ヲ為スニ當リテハ忠實以テ其事ニ從ハサル可カラス。今若シ代理人カ本人ニ代ハリテ自己ト法律行為ヲ為スコトヲ得ヘシトセハ本人ノ利益ト自己ノ利益ト抵觸スルノ結果ヲ生スルコトナレトセ此場合ニ於テ代理人ハ本人ノ利益ヲ後ニシテ自己ノ利益ヲ先キニスルコトアルヲ免レサル

法典調査會

へし然ルニ若シ之ニ責ムルニ必ス本人ノ利益ヲ先キニスヘキコトヲ以テセハ是レ難キヲ人ニ責ムルモノト謂ハサハ可カラス代理人ク第三者ノ代理人トシテ法律行為ヲ為ス場合ニ於テ亦殆ト同一ノ困難ヲ生シ其一方ノ本人ヲ利セントスルトキハ他ノ一方ノ本人ノ利益ヲ顧ルニ遑アラサルコト多シトス故ニ本案ニ於テハ代理人ハ何レノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ト法律行為ヲ為エコトヲ得サルソ以テ原則ト者シタリ但第二項ノ場合ニ於テハ毫々弊害ノ之ニ伴フモノナキヲ以テ例外トシテ之ヲ許スコトニ定メタリ

第一百十條

(理由)既成法典ニ一尋ニ有レト對スル意思表示  
示ニ依リテ代理權ヲ授與スルコトヲ得ル  
規定アルナシ是レ一ノ欠點ナリト信ス蓋  
シ吾人ノ第ニ者ニ對シテ或人ニ代理權ヲ  
授與スル意思ヲ表エシタルトキハ其人ト  
ノ間ニ委任契約ノテ係ナキニ拘ハラス本  
余ニ宣メタル效果ヲ生スルモノト爲スコ  
ト實際ニ於テ極ムニ必要ナリト是レ独  
乙民法草案ニ倣ヒテ完全ノ規定ヲ設ケタ  
ル所スナリ

第一百十一条

(理由) 本条ハ財産取得締方二百五十九年第二項ノ規定ヲ採用シタルモノナリ凡代理人カ權限外ノ行為ヲナシタルトキハ其行為ハ固ヨリ本人ニ對レテ何等ノ効力ヲ有セサルモノトス假令方三帝ニシテ善意ナルモ其一事ヲ以テハ未タ此章則ヲ覆スニ足ラサルナリ然リト虽モ差ニオミ高カ善意ニシテ且ツ代理人ニ其行為ヲ權限アリト信ス可キ正當ノ理由ヲ有スルトキハ契取引ノ安全ヲ保持スル為ソ其代理人ノ為シタル權限外ノ行為ヲ有效ト為スノ必要アリトス是し本条ノ規定ヲ置キタル所以ナリ

法典調査會

但原文ノ善意云々ハ他ノ要件中ニ自ラ包含スルモノナルトク以テ乞之ヲ削除シタリ

第一百十二条

(理由) 本条第一項ハ法律上ノ代理ナリ代理ト委任ニ因ル代理トニ適用スヘキ規定ナルヲ以テ此ニ之ヲ置ケリ其委任ニ因ル代理ニ特別ナル代理權消滅ノ原因ハ云ラズ第三編中委任ノ条下ニ於テ規定セレトス

第一百十三条

(理由) 本条ハ財産取得締方二百五十九年第二百五十九年依リタルモノニシテ第三者ヲ保護スル為ソ極シテ必要ナル規定ナリトス瑞西債務法及ヒ独逸民法草案ニ依レハ代理權ノ消

## 法典調査會

減ハ之ヲ第三者ニ通知スルニ此ラスしハ  
其效十キモノトアリ然リト旨モ此規定タ  
ル其通知ノ方法如何ニ依リ或ハ第ニ者ノ  
為ソニ不充分ナルヘク或ハ之ニ及シテ巨  
多ノ費用ト午敷トヲ要レ煙ニ過クル等ア  
ルヘレ故ニ本案ニ於テハ**神速成法**其他大  
半ノ立法例ニ倣ヒ代理權ハ前会ニ掲ケタ  
ル事由ニ依リテ尙歎滿滅スルモノトシ只  
善意ニシテ且ワ過失ナリ第三者ニノミ之  
ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ  
又独逸民法草案ニ於テハ本人カ代理人ニ  
委任狀ヲ交付シタル場合ニ於テ其委任狀  
ノ返還ヲ受ケサルカ又ハ裁判所カ其故無  
裁利害ノ認定ニ一任シタリ

## 第百十四竿

(理由)本条以下ハ全體代理權ヲ有セス又ハ代理權ヲ  
固シ起ヘテ為シタル法律行為ノ效果ヲ規定シタル  
モノナリ本条ハ獨逸草案ニ倣ヒ先ツ契約ノ  
場合ト單獨行為ノ協定ト區別セリ代理權ヲ有セサ  
ル若カ契約ヲ為シタル場合は之ヲ專ク事實  
人ノ追認ヲ假ハ之ニ對シテ全體其効力ヲ生セ/

附董ミ代理人の相手方ニ對しテ全ノ事項  
シ見しニ相手方モ亦一定ノ範圍内ニ於テ  
拘束モアルムトス要スルニ此場合、  
於テ之代理権ノ有ニサル者ノ行為、何人  
・對レテモ無放任ニ非スレニ一縛ノ故  
力ヲ生ムンテノタリ之ニ反しテ代理権ノ  
有ニサル者ケ房シタル單独行為、其行為  
ナキツ以テ原則ト考レシ三十百十九年ニ揚  
シタル場合、限り契約、干ニル本末以下  
ノ規定ヲ遵守ス可ヤマノトセリ是化シテ  
單独行為ヲ契約ト置キナリヨ全ノ相手方ノ  
行為ニ非ス追認、因リテ其效力ヲ生ス  
キモノトスンニ本人ノ落メヒ利益ナル

法典調査會

フト論フ後ノスト事モ相手方ニ於テ之其  
行為、社力不確定、十ん為、大迷惑ナナレト  
セス尤モ本人ニ計レテ或則同内ニ確定  
落スヘキ旨儀告、シルンフト、ナサルニ  
非ヌト事モ斯ノ如キ想方ヲ取テレリルノ  
理由ナキ既待ト謂、シタルク時、不唯其代理  
人ト幹スル者ノ代理権ヲ有ニシテ單独  
行為ヲ落ス福特ニ同意シ又、其代理権ヲ  
争ッサリシトキ、限り契約、干ニル規定  
ヲ適用シシコトヲ済ヘマノ、要スルニ代  
理権ナキ代理ヲ認ムンノ、要ハ主トシテ  
契約ニ付キ之ヲ見ルナリ

既成協定ニ於テ之代理人ノ権限外ニ落シ

ノル行為：所キ委任者の追認ニ因リニ其  
責ニ付スルコトノ外取ニ五只ニ項アリ。何  
等ノ規定ヲモ設ケタルヲ見ス或ハ事務管  
理ニ干スル規定、適用ニ依リ代理アリシ  
タル者ノ利益、多シノ場合、於テ保護セ  
ラルフトナ清一レト烏ニ全佈上ヨリ考  
ルトキハ不完全ヲ見カレサん如レ是故ニ他  
然りん代理ノ規定、次キ本条以下ノ規定  
ヲ該ナリ所以ナリ

第一百五條

(理由)本条の代理権ヲ有セサル者ト契約ヲ  
爲シタル相手方より其契約に拘束セラルン  
コトヲ玉ミト共ニ其拘束ヲ免カルナラニ

法典調査會

清ア走メタルマノトヌ益レ契約ト並モ相  
手方クレテ陰限ナク之ニ拘束セラム  
トナヌトキリ惟利闘倅ノ永ク確定セサル  
不即合タ生ズマシ以ニ相手方ナシテ相  
手ノ期間ヲ定メ其期間内ニ追認ヲ爲スヤ  
否ヤソノ確定ヲキ旨ヲ本人ニ催告スルフ  
トノ浮也シメタリ而シテ本人ノ其期間  
ニ確定ヲ爲サセルトキリ追認ヲ拒絶シリ  
ルモノト看做スヘキコト固ヨリ論フ俟リ  
ケン所ナリ特逸民法、草案ニ於ニク本人  
二回同日、傳答ヲ爲サセルトキリ追認ヲ拒  
絶シタルマノト看做スノ規定ナリト宣エ  
斯ノ法律ニ於テ一切ノ場合、適用スルナリ

日向ノ定メレヨリハ寧ニ瑞西債務也：俊ヒ  
相富ノ期割也：確<sup>タ</sup>未<sup>タ</sup>為サレルヲ以テ  
便利ト信シテリ

第百十六條

理由代理權ヲ有セん若ノ為レタル總務  
其相手方：對しテハ當然無效：非セル  
ト前ニ<sup>相手方</sup>ニ見走：依リテ已ニ明ナリト  
是モ其代代理人ト云ム若ク代理權ヲ有セ  
サルコトタク<sup>アリ</sup>タル場合ト之ヲ知テサリ  
し場合ト、依リテ其後至<sup>タ</sup>善ニスル所十  
カル一カラニ若夫し相手方カ代理權ノ取  
缺ク矣ラサリシトドケ之ヲレタ契約ノ取  
消ヲボルンコトヲ序セシケルヲ亘吉ナリ

法典調査會

トス之ニ及シラ代理權ノ欠缺フタリシ  
場合：於テ<sup>タ</sup>木人<sup>ノ</sup>追認<sup>タ</sup>該<sup>シ</sup>シラ契約ヲ  
考レタルモノナルヲ以テ恰ニ總ノ未收年  
者ト契約<sup>タ</sup>成レタルニ同シク而年ノ規定  
依リ木人<sup>ノ</sup>對レテ催告ヲ為スコトヲ序  
ルノ外他ノ保護ヲ享<sup>タ</sup>キモニ非サル  
ナリ

第百十七條

理由本章ノ規定ハ既以精要<sup>シ</sup>之ナシト  
生々諸國ノ法律及ニ字説<sup>シ</sup>於ニ於<sup>タ</sup>ト一般  
之總<sup>タ</sup>所ナリ然リト萬<sup>タ</sup>明之ナキトキ  
之或<sup>タ</sup>總<sup>タ</sup>生<sup>タ</sup>之<sup>タ</sup>キト但書<sup>シ</sup>以<sup>タ</sup>其商  
用ノ制限<sup>ル</sup>ノ尤要アルヲ以<sup>タ</sup>此<sup>シ</sup>之ノ圖<sup>シ</sup>

第一百十八條

(理由本條) 代理人ノ代理權ヲ有セサル者カ他人ノ  
代理人トニテ契約ヲ為シタル場合、於テ  
其相手方ニ對スル責任ヲ定メタルニノナ  
リ此場合ニ於テ若本人カ其契約ヲ追認ス  
レハ代理人ニ責任アルコトヲ要セズト雖  
シ追認ナキトキハ相手方ニ對シテ代理權  
アリト信セシメタル過失ノ責、ニ任セサル  
ハカラス本條第一項ハ即テ其責任ノ何多  
ルコトヲ示シタルモノ、シテ代理人カ相  
手方ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フコト  
ニ付テハ諸國ノ法律其規定ヲ異ニセヌト  
雖ニ尚古相手方ノ選擇ニ従ヒテ履行ノ責

法典調査會

ニ任スヘキヤ否ヤニ付テハ立法例一定セ  
ニ既成法典財產取得篇第二百四十四條末  
文ハ即テ本條第一項ノ場合ノ規定シタル  
モノニシテ此規定ニ依ルトキハ代理人ハ  
單ニ損害賠償ノ責任ノニシテ負担スルモノ  
ナルヤ又ハ履行ノ責任ヲモ負担スルモノ  
ナルヤニ付キ頗ル明瞭ヲ缺ケリ然レトモ  
草案註釋書ニ就キ考ルトキハ單ニ賠償ノ  
責任ヲ規定シタルモノノ如シ佛蘭西、荷蘭、  
伊太利、モンテネグロ、西班牙諸國ノ民法及  
ヒ印度契約法等ニ於テモ亦此主義ヲ採レ  
リ商法第三百四十三條ハ代理人通則トレ  
テ本條ノ場合ノ規定ニシテト雖ニ其規定

甚<sup>タ</sup>簡<sup>シ</sup>テ草案說明書(三九六)：依ルモ  
本編ノ魚<sup>ヲ</sup>付キ其何レニ決<sup>セ</sup>シト欲<sup>ニ</sup>タ  
ルヤナ確<sup>シ</sup>タル。若ムナリ<sup>テ</sup>然<sup>リ</sup>雖<sup>モ</sup>同<sup>法</sup>  
法第四十九條ハ代務人<sup>：</sup>付キ本條第一項  
ト同一<sup>ニ</sup>規定ヲ掲ケタリ是<sup>レ</sup>猶逸商法ノ  
規定ニ倣<sup>ヒ</sup>タルモノナリ猶逸民法草案ニ  
於<sup>テ</sup>ハ代理ノ通則トシテ本條第一項ノ陽  
合<sup>ニ</sup>履行又<sup>ハ</sup>賠償ノ責任アルコト<sup>ヲ</sup>規定  
セリ是<sup>レ</sup>取引ノ安全ヲ維持スルニ<sup>當當</sup>ノ  
規途ト認ムル<sup>ヲ</sup>以テ此<sup>：</sup>之<sup>ヲ</sup>採用セリ  
第二項<sup>ノ</sup>規定ハ第百十六條<sup>ノ</sup>規定ト相應  
シテ相手方ノ權利ヲ定ム<sup>ク</sup>人ニナリ  
應<sup>シ</sup>テ其條件<sup>ニ</sup>付テハ少シク相異ナル所

アリ第百十六條：於テハ相手方ケ代理權ノ欠缺ヲ知リタル場合ト過失ニ因リテ之ヲ知テサリシ場合トノ同一視セズ其過失ニ因リテ之ヲ知テサリシ場合ミテノ取扱權ヲ有スルモノトセリ抑ミ相手方ケ代理權ナキエトヲ知リテ契約ノ為シタル場合ニ於テハ本人又追認ヲ期望シタルモノナレラニ以テ糧りニ之ヲ取消ク考スコトヲ得セレム可カラストト雖モ過失ニ因リテ其事實ヲ知テサリシ場合ミテノ同一ノ斷定シ下スニト得ス理論上ヨ，觀察スレ甚契約ナル當事者ナキノ故テ以テ本來無效ノモノトス然ルニ法律上當然之ヲ無

效トセサル所以ハ唯相手方ノ所為ヲ責ム  
ル趣意ニアラスレテ寧ロ本人及ヒ相手方  
双方ノ為ノニ便利ナルヘキカ故ナリ果レ  
テ然テハ其取扱權ノ範圍ハ特別ノ理由ナ  
キ限ハ委リニ之ヲ制限セサルソ當然トス  
代理權ナキク知ラサリレニトニ付テマテ  
相手方ノ不注意ノ責ムルノ理由ヲ見カル  
ナリ之ニ及シテ本條ノ場合ニ於テハ<sup>元</sup>セ  
已ノ為メニ契約ノ為スノ意

恩十キ者ノ責任ヲ定メタルモノニシテ其  
代理人ト称スル者ハ或ハ好意ヲ以テ之ヲ  
為シタルモ<sup>然</sup>知ルヘカラス然ルニ其一方ノ  
事情ハ毫モ視ル所ナク相手方カ相當ノ注  
意ヲ用エレハ知ルコトヲ得ヘキ代理權ノ  
欠缺ニ付ニテモテ之ニ對シテ其責ニ任セサ  
ルコトヲ得サルモノトスルハ少シク酷ニ  
過ケルモノト謂ヘサルヲ得ヌ假令ヒ其場  
合ニ於テ代理人ニ對シテハ權利十キモノ  
トスルモ善意ナル故ニ以テ前條ノ保護ヲ  
享有スヘケ又<sup>詳ニ</sup>第百十六條ノ催告ヲ為  
スコトヲ得ヘレ故ニ其過失ノ責ニ任セレ  
ムルモ敢テ酷ニ失スルモノト謂フコトヲ得サルナリ

### 法典調査會

第二項本文ハ無能力者ヲ保護スル為メ  
規定ニシテ説明ノ必要ヲ見サルナリ

### 第一百十九條

(理) 迪單獨行為ニ付テハ本條ニ掲タル條件  
ノ具備スル場合ノ外代理權十キ代理ヲ認  
メサルヲ以テ原則ト為スヘキコトハ已ニ  
第一百四條ノ説明中ニ述ヘタルシ以テ茲  
ニ再ヒ之ヲ論セス本條本文ノ規定ハ例ハ  
ハ<sup>韓</sup>濟<sup>慶</sup>受領ノ權限ヲ有セサル者ニ<sup>韓</sup>濟<sup>慶</sup>  
為シタル如キ場合(四八七、財四五六)=適用  
スヘキモノニシテ本文中ニ包含マサルヲ  
以テ之ヲ加ヘタリ)